

(様式第10)

愛医病管第131号
平成27年9月28日

東海北陸厚生局長 殿

学校法人愛知医科大学
理事長 三宅 養三 印

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成26年度の業務
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
氏 名	学校法人愛知医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

愛知医科大学病院

3 所在の場所

〒 480 - 1195	電話 (0561)62-3311
愛知県長久手市岩作雁又1番地1	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化管内科 2 肝胆膵内科 3 循環器内科 4 呼吸器内科 5 アレルギー科 6 内分泌内科 7 代謝内科	
8 神経内科 9 腎臓内科 10 リウマチ科 11 血液内科 12 糖尿病内科 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器外科 2 心臓外科 3 血管外科 4 呼吸器外科 5 乳腺外科 6 内分泌外科 7 腎移植外科	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1 精神科 <input checked="" type="radio"/> 2 小児科 <input checked="" type="radio"/> 3 整形外科 <input checked="" type="radio"/> 4 脳神経外科 <input checked="" type="radio"/> 5 皮膚科 <input checked="" type="radio"/> 6 泌尿器科 <input checked="" type="radio"/> 7 産婦人科
8 産科 9 婦人科 <input checked="" type="radio"/> 10 眼科 <input checked="" type="radio"/> 11 耳鼻咽喉科 <input checked="" type="radio"/> 12 放射線科 13 放射線診断科
14 放射線治療科 <input checked="" type="radio"/> 15 麻酔科 <input checked="" type="radio"/> 16 救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名等	
1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科 2 リハビリテーション科 3 病理診断科 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47 床	床	床	床	853 床	900 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 9 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	437 人	8.6 人	445.6 人	看護補助者	7 人	診療エック ス線技師	0 人
歯科医師	12 人	0.5 人	12.5 人	理学療法士	28 人	臨床検査技 師	67 人
薬 剤 師	69 人	2.3 人	71.3 人	作業療法士	9 人		衛生検査技 師
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	5 人	そ の 他	0 人
助 産 師	23 人	0 人	23.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	985 人	14.1 人	999.1 人	臨床工学技士	19 人	医療社会事 業従事者	8 人
准看護師	5 人	0 人	5.0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	9 人
歯科衛生士	4 人	0 人	4.0 人	歯科技工士	2 人	事 務 職 員	83 人
管理栄養士	12 人	0 人	12.0 人	診療放射線技師	57 人	その他の職員	49 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 27 年 9 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	23 人	眼 科 専 門 医	11 人
外 科 専 門 医	34 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精神科専門医	11 人	放射線科専門医	11 人
小児科専門医	20 人	脳神経外科専門医	11 人
皮膚科専門医	9 人	整形外科専門医	16 人
泌尿器科専門医	9 人	麻酔科専門医	13 人
産婦人科専門医	16 人	救急科専門医	10 人
		合 計	205 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	690.2 人	7.0 人	697.2 人
1 日当たり平均外来患者数	2,304.0 人	89.5 人	2,393.5 人
1 日当たり平均調剤数			3,367.5 剤
必 要 医 師 数			201.5 人
必 要 歯 科 医 師 数			5.4 人
必 要 薬 剤 師 数			43.0 人
必 要 (准) 看 護 師 数			432.0 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	834.43 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	40床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	243.39 m ² 台	病床数 18床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	31 m ²	
化学検査室	566.47 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置 検体検査自動化システム
細菌検査室	145.69 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動血液培養装置 自動細菌検査装置 サーマルサイクラー ふ卵器
病理検査室	306.63 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ペンタナベンチマークULTA LEICA ASP6025 OLYMPUS BX51
病理解剖室	42.73 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パイパード対策解剖台&切り出し台 おマリン希釈装置 臓器撮影装置(換気付)
研究室	6,719 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	研究用機器
講義室	3,342 m ²	鉄筋コンクリート	室数	20室
図書室	1,976 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室
				収容定員 2,082人 蔵書数 11万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	70.4 %	逆紹介率	50.0 %
算出根拠	A：紹介患者の数		17,435人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,620人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,742人
	D：初診の患者の数		27,251人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	97 人	・膿疱性乾癬	9 人
・多発性硬化症	127 人	・広範脊柱管狭窄症	3 人
・重症筋無力症	245 人	・原発性胆汁性肝硬変	1 人
・全身性エリテマトーデス	1,629 人	・重症急性膵炎	42 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	67 人
・再生不良性貧血	53 人	・混合性結合組織病	76 人
・サルコイドーシス	847 人	・原発性免疫不全症候群	9 人
・筋萎縮性側索硬化症	38 人	・特発性間質性肺炎	67 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	508 人	・網膜色素変性症	78 人
・特発性血小板減少性紫斑病	283 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	33 人	・肺動脈性肺高血圧症	1 人
・潰瘍性大腸炎	302 人	・神経線維腫症	69 人
・大動脈炎症候群	41 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	48 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3 人
・天疱瘡	87 人	・慢性血栓性肺高血圧症	4 人
・脊髄小脳変性症	64 人	・ライソゾーム病	0 人
・クローン病	111 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	53 人
・悪性関節リウマチ	14 人	・脊髄性筋萎縮症	5 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	580 人	・球脊髄性筋萎縮症	6 人
・アミロイドーシス	88 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16 人
・後縦靭帯骨化症	245 人	・肥大型心筋症	110 人
・ハンチントン病	1 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	63 人	・ミトコンドリア病	7 人
・ウェゲナー肉芽腫症	1,055 人	・リンパ管筋腫症(LAM)	1 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	32 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	8 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	4 人	・黄色靭帯骨化症	16 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	87 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料	・ 高エネルギー放射線治療
・ 糖尿病合併症管理料	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ がん治療連携計画策定料
・ がん患者指導管理料(1)	・ 糖尿病透析予防指導管理料
・ がん患者指導管理料(2)	・ 外来放射線照射診療料
・ がん患者指導管理料(3)	・ 時間内歩行試験
・ 地域連携診療計画管理料	・ ヘッドアップティルト試験
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ CT透視下気管支鏡検査加算
・ 薬剤管理指導料	・ 大腸CT撮影加算
・ 医療機器安全管理料(1)(2)(歯科)	・ 腫瘍脊椎骨全摘術
・ 歯科治療総合医療管理料	・ 上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・ 在宅患者歯科治療総合医療管理料	・ 上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ HPV核酸検出	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 検体検査管理加算(4)	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 院内トリアージ実施料
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 内視鏡手術用支援機器加算
・ 植込型心電図検査	・ 広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・ 皮下連続式グルコース測定	・ 生体腎移植術
・ 長期継続頭蓋内脳液検査	・ 総合評価加算
・ 神経学的検査	・ 呼吸ケアチーム加算
・ 補聴器適合検査	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(1)
・ コンタクトレンズ検査料(1)	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 小児食物アレルギー負荷検査	・ 人工乳房及び組織拡張器(乳房用)使用
・ 内服・点滴誘発試験	・ 認知症専門診断管理料
・ センチネルリンパ節生検	・ 臓器移植後患者指導管理料
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 自家培養軟骨使用
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 植込型骨導補聴器移植術及び交換術
・ 外来化学療法加算(1)	・ 心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行期加算
・ 無菌製剤処理料	・ 持続血糖測定器加算
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・ 胃瘻造設術
・ 運動器リハビリテーション料(1)	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 呼吸器リハビリテーション料(1)	・ 高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(1)の初期加算	・ HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ 運動器リハビリテーション料(1)の初期加算	・ 歯科口腔リハビリテーション料(2)
・ 呼吸器リハビリテーション料(1)の初期加算	・ 中
・ 医療保護入院等診療料	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・ 一酸化窒素吸入療法	・ 経皮的冠動脈形成術
・ 歯科技工加算	・ 経皮的冠動脈ステント留置術
・ 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び交換術、脊髄刺激装置植込術及び交換術	・ 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
・ 人工内耳植込術	・ ポジトロン断層撮影
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算(1)(2)	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるものに限る)	・ 輸血管理料(1)・適正使用加算
・ 経皮的中隔心筋焼灼術	・ 画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・ ペースメーカー移植術及び交換術	・ 透析液水質確保加算(2)
・ 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・ 病理診断管理加算(1)
・ 両心室ペースメーカー移植術及び交換術	・ 口腔病理診断管理加算(1)
・ 植込型除細動器移植術及び交換術	・ 外来緩和ケア管理料
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び交換術	・ 画像診断管理加算(2)
・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・ 定位放射線治療
・ 経皮的大動脈遮断術	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ ダメージコントロール手術	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 外傷全身CT加算
・ 生体部分肝移植術	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・ 心臓MRI撮影加算
・ 膀胱水圧拡張術	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・
・ 医療点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・
・ 歯周組織再生誘導手術	・
・ 麻酔管理料(1)(2)	・
・ 放射線治療専任加算	・
・ 外来放射線治療加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- (注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に3回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 21 例 / 剖検率 3.4 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
都市内の災害時の流動に関する総合的研究- 効率性と頑健性を備えた都市実現に向けて-	藤原 祥裕	麻酔科学講座	¥340,000	補 委 日本学術振興会
長期記憶形成におけるアストロサイト代謝 の役割と麻酔薬作用の分子科学的機序の解 明	木下 浩之	麻酔科学講座	¥500,000	補 委 日本学術振興会
敗血症病態による頻脈性不整脈における micro-RNAの影響についての研究	畠山 登	周術期集中治療部	¥1,900,000	補 委 日本学術振興会
RNAiを用いたA77 ⁴⁹ の機能調整による脳浮腫 抑制のin vivoへの応用	藤田 義人	麻酔科学講座	¥1,341,555	補 委 日本学術振興会
生活習慣(病)の改善が冠動脈プラーク 性状に与える影響	天野哲也	循環器内科	¥2,000,000	補 委 日本学術振興会
免疫調整遺伝子多型解析に基づくテラ ラーメード型同種造血細胞移植の確立	高見 昭良	血液内科	¥1,602,186	補 委 文部科学省科学研究費
免疫遺伝情報に基づく非血縁移植統合デー タベースの構築と最適なドナー・さい帯血 の選択	高見 昭良	血液内科	¥500,000	補 委 厚生労働省科学研究費(分担)
同種造血細胞移植関連免疫調整遺伝子 多型の機能解析	高見 昭良	血液内科	¥250,000	補 委 第39回がんその他の悪性新 生物研究助成金 愛知県がん研究振興会
免疫調整遺伝子多型解析に基づくテラ ラーメード型同種造血細胞移植の確立	高見 昭良	血液内科	¥1,000,000	補 委 第32回一般研究助成金 公益財団法人 先進医薬研 究振興財団
同種造血細胞移植関連免疫調整遺伝子 多型の機能解析	高見 昭良	血液内科	¥1,000,000	補 委 公益信託 第24回日本医学 会総会記念医学振興基金 三井住友信託銀行
頭頸部がん治療における正確かつ迅速 な抗がん薬感受性診断法の確立	小川徹也	耳鼻咽喉科学	¥1,430,000	補 委 平成26年度科学 研究費 基盤 (C)
聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認 知症ケアの在り方に関する検討	内田育恵	耳鼻咽喉科学	¥1,600,000	補 委 平成26年度科学 研究費 基盤 (C)
耳石における放射性物質の動態変化と 濃縮予防への挑戦	谷川 徹	耳鼻咽喉科学	¥1,690,000	補 委 平成26年度科学 研究費 基盤 (C)
大腸癌における上皮細胞増殖因子関連 新規分子標的遺伝子の機能解析	小笠原尚高	消化器内科	¥1,170,000	補 委 日本学術振興会
妊娠高血圧症候群における酸化ストレ スと胎児発育障害との関連性の検討	若槻明彦	産科・婦人科	¥1,000,000	補 委 公益財団法人日母 おぎや一献金基金
磁気ナビゲーションシステムによる画像融 合技術を用いた乳腺超音波装置の開発	吉田美和	乳腺・内分泌外科	¥130,000	補 委 日本学術振興会
乳癌組織におけるSHAP-HA複合体による酸化 ストレス防御機構の解明	藤井公人	乳腺・内分泌外科	¥390,000	補 委 日本学術振興会
磁気ナビゲーションシステムを用いた診断 支援型乳腺超音波イメージングシステムの 開発	中野正吾	乳腺・内分泌外科	¥780,000	補 委 日本学術振興会
甲状腺癌における細胞外マトリックス成分 の発現動態を介した癌転移浸潤機構の解明	高阪絢子	乳腺・内分泌外科	¥1,820,000	補 委 日本学術振興会
磁気ナビゲーションシステムを用いた分子 イメージングシステム標的病変検出支援型 超音波診断装置の開発	安藤孝人	乳腺・内分泌外科	¥780,000	補 委 日本学術振興会
細胞外マトリックス成分の生合成からみた 乳癌・甲状腺癌転移浸潤機構の解明	手塚理恵	乳腺・内分泌外科	¥1,820,000	補 委 日本学術振興会
分子標的治療薬の新規薬力学評価法-非小 細胞肺癌のがん性胸膜炎をモデルとして	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科	¥430,000	補 委 日本学術振興会

上皮成長因子受容体遺伝子変異 (Exon 19 deletion または Exon 21 point mutation) がない、または不明である非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+ベバシズマブ併用療法施行後、維持療法として、ペメトレキセド+ベバシズマブ併用療法をベバシズマブ単剤と比較する第Ⅲ相臨床試験 (WJOG5610L, COMPASS study)	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科	¥200,000	補 委	NPO法人・西日本がん研究機構 (WJOG)
自己免疫性肺胞蛋白症の自己抗体エピトープ解析	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥2,470,000	補 委	日本学術振興会
肺胞蛋白症、遺伝性間質性肺疾患に関する研究：難治化要因とその克服	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥1,000,000	補 委	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究班	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥200,000	補 委	厚生労働省
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「致命的臓器障害に対する次世代分子標的治療法の開発」	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥4,000,000	補 委	文部科学省
慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為に医療システム構築に関する研究	牛田享宏	愛知医科大学医学部学際的痛みセンター	¥44,200,000	補 委	厚生労働科学研究
胸部脊髄神経後肢三枝の走行についての三次元的構造解	若尾典充	脊椎脊髄センター	¥4,750,000	補 委	日本学術振興会
次世代拡散MRI解析を用いた小児神経疾患の脳微細構造解析	奥村彰久	小児科	¥1,200,000	補 委	文部科学省
胎児発育不全児の中樞神経障害に対する幹細胞治療の開発	奥村彰久	小児科	¥500,000	補 委	文部科学省
発育不全を伴う早産児におけるIGF-Iの役割とrhIGF-I投与に関する検討	奥村彰久	小児科	¥75,000	補 委	文部科学省
重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	奥村彰久	小児科	¥2,000,000	補 委	厚生労働省
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	奥村彰久	小児科	¥400,000	補 委	厚生労働省
希少難治性てんかんのレジストリ構築による包括的研究	奥村彰久	小児科	¥400,000	補 委	愛知県
日本人におけるPRRT2変異によるてんかんの包括的研究	奥村彰久	小児科	¥1,600,000	補 委	てんかん財団
モノクローナル抗体をもちいたアスパラギナーゼ感受性腫瘍の検索	鬼頭敏幸	小児科	¥1,700,000	補 委	文部科学省
LCHにおける免疫染色によるAsparagine synthetase発現の検討	鬼頭敏幸	小児科	¥200,000	補 委	NPO法人LCH研究会
小児がんの登録・中央診断の推進を基盤とする病態解明と先駆的診断法開発	堀壽成	小児科	¥3,000,000	補 委	独立行政法人国立成育医療研究センター
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究 (分担)	高安正和	脳神経外科	¥250,000	補 委	厚生労働省
慢性硬膜下血腫被膜の自然退縮におけるapoptosisの役割 (代表)	大須賀 浩二	脳神経外科	¥1,200,000	補 委	文部科学省
複雑局所性疼痛症候群Ⅰ型の慢性痛に対する海馬でのmitogen-activated protein kinase活性化の作用機序	大須賀 浩二	脳神経外科	¥820,000	補 委	日本損害保険協会
頸椎症術後の第五頸神経麻痺を頸部体表超音波で予測する	竹内 幹伸	脳神経外科	¥500,000	補 委	名古屋脊椎グループ研究助成金
脊髄障害性疼痛を引き起こす大脳賦活化領域の局在に関する研究	竹内 幹伸	脳神経外科	¥1,000,000	補 委	中富財団
モノクローナル抗体をもちいたアスパラギナーゼ感受性腫瘍の検索	加藤 栄史	輸血部	¥100,000	補 委	日本学術振興会
ヘモビジュランス (血液安全監視) 体制のあり方に関する研究	加藤 栄史	輸血部	¥0	補 委	厚生労働科学研究

リンパ腫微小環境に存在する多能性幹細胞MUSEの機能解析	中山 享之	輸血部	¥1,100,000	補 委	日本学術振興会
脂肪由来間葉系幹細胞を用いた造血支持療法	中山 享之	輸血部	¥4,000,000	補 委	名古屋大学橋渡し研究シーズA
腎細胞がんに対するがんワクチン・抗原特異的CTL・抗がん剤を用いた併用療法の検討	吉川和宏	細胞治療センター	¥1,291,327	補 委	文部科学省
エフェクター制御性T細胞の統合的制御に基づく新たながん免疫治療法の確立	吉川和宏	細胞治療センター	¥250,000	補 委	文部科学省
頭頸部癌におけるシスプラチン感受性規定因子の解明—網羅的タンパク解析法を用いて	吉川和宏	細胞治療センター	¥300,000	補 委	文部科学省
泌尿器癌の転移抑制におけるp16機能性ペプチド全身投与の効果と毒性の検討	吉川和宏	細胞治療センター	¥253,374	補 委	文部科学省
トロンボモジュリン遺伝子導入により安全性を高めた間葉系幹細胞の作成	高 四強	輸血部	¥600,000	補 委	日本学術振興会
救急医療体制の推進に関する研究	野口 宏	救命救急科	¥130,000	補 委	厚生労働省
救急救命士の処置範囲に係る研究	中川 隆	救命救急科	¥0	補 委	厚生労働省
2種類の次世代高速シーケンサーを用いたB型肝炎慢性化阻止法の開発	伊藤清顕	肝胆膵内科	¥1,670,000	補 委	科学研究費助成事業
B型肝炎ウイルスにおける糖鎖の機能解析と医用応用技術の実用化へ	伊藤清顕	肝胆膵内科	¥3,900,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金

計 ¥108,733,442

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hiroyuki Ishibashi, et al.	愛知医科大学 血管外科	Late Events and Mid-term Results After Endovascular Aneurysm Repair	Surgery Today, 44:50-54, 2014
2	Arita, A., Sasanabe, R., Hasegawa R., Nomura A., Hori R., Mano M., Konishi N., and Shiomi, T.	睡眠科	Risk factors for automobile accidents caused by falling asleep while driving in obstructive sleep apnea syndrome.	Sleep Breath
3	畠山 登	周術期集中治療部	Alert cell strategy: mechanisms of inflammatory response and organ protection	Curr Pharm Des. 2014;20 (36):5766-78.
4	藤田 義人	麻酔科学講座	Estimation of the success rate of anesthetic management for thymectomy in patients with myasthenia gravis treated without muscle relaxants: a retrospective observational cohort study.	J Anesth. 2015 Mar
5	藤田 義人	麻酔科学講座	Clinical usefulness of blood lactate level as a prognostic indicator comparing with Acute Physiology and Chronic Health Evaluation (APACHE) II scores: A retrospective, observational, cohort study	Nagoya Medical Journal 2014 59
6	Jiro Nakamura	糖尿病内科	Protocol for a large-scale prospective observational study with alogliptin in patients with type 2 diabetes: J-BRAND Registry.	BMJ open
7	Jiro Nakamura	糖尿病内科	Spironolactone inhibits production of proinflammatory mediators in response to lipopolysaccharide via inactivation of nuclear factor- κ B.	Immunopharmacol Immunotoxicol
8	Jiro Nakamura	糖尿病内科	Therapeutic efficacy of bone marrow-derived mononuclear cells in diabetic polyneuropathy is impaired with aging or diabetes.	J Diabetes Investig
9	熊谷宗一郎	循環器内科	Prognostic impact of lipid contents on the target lesion in patients with drug eluting stent implantation	Heart Vessels 2014;29 (6):761-8
10	安藤博彦	循環器内科	Two peri-stent contrast stainings and one late restenosis in the late phase after sirolimus-eluting stent implantation	Journal of Cardiology Cases, 2014;9 (4):145-147
11	熊谷宗一郎	循環器内科	Impact of chronic obstructive pulmonary disease on composition of left main coronary artery plaque with intermediate stenosis	Int J Cardiol. 2014;174 (3):865-6
12	高島浩明	循環器内科	Very late acquired peri-stent contrast staining and incomplete stent apposition with biodegradable polymer stents: Insight from optical coherence tomography	Int J Cardiol. 2014;176 (1):e11-2.
13	熊谷宗一郎	循環器内科	Impact of cigarette smoking on coronary plaque composition.	Coronary Artery Dis. 2015;26 (1):60-5.
14	鈴木昭博	循環器内科	Effects of polyunsaturated fatty acids on periprocedural myocardial infarction after elective percutaneous coronary intervention.	EuroIntervention. 2014;10 (7):792-8.
15	天野哲也	循環器内科	Non-invasive assessment of functionally significant coronary stenoses through mathematical analysis of spectral ECG components.	Open Heart. 2014;1 (1):e000144.

16	大谷智子 (林智子)	歯科口腔外科	Activated cytotoxic T-lymphocyte immunotherapy is effective for advanced oral and maxillofacial cancers.	International journal of oncology, 45(5), 2051-57, 2014.
17	山田陽一	歯科口腔外科	Current trends in stem cell therapy for improvement of bone quality.	Histol Histopathol, 29(6), 691-97, 2014.
18	後藤 峰明	血液内科	Importance of glutamine metabolism in leukemia cells by energy production through TCA cycle and by redox homeostasis	Cancer Investigation 32(6):241-7
19	高見 昭良	血液内科	Donor lymphocyte infusion for the treatment of relapsed acute myeloid leukemia after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a retrospective analysis by the Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation	Biology of Blood and Marrow Transplantation 20(11):1785-90
20	Kunihiro Nishimura	Aichi Medical university ENT	Identification of chemoresistant factors by protein expression analysis with iTRAQ for head and neck carcinoma.	Br J Cancer 111:4:799-806 2014
21	Yasue Uchida	Aichi Medical university ENT, National Center for Geriatrics ENT and Gerontology, Nagoya University ENT	Progress and Prospects in Human Genetic Research into Age-Related Hearing Impairment	BioMed Research International 2014; Epub 2014 Jul 22. Review
22	Hiroshi Nonoyama	Aichi Medical university ENT	Evidence for bilateral endolymphatic hydrops in ipsilateral delayed endolymphatic hydrops: preliminary results from examination of five cases.	Acta Otolaryngol 134:3:221-6 2014
23	Yasue Uchida	Aichi Medical university ENT, National Center for Geriatrics ENT and Gerontology, Nagoya University ENT	The association between hearing impairment and polymorphisms of genes encoding inflammatory mediators in Japanese aged population	Immun Ageing. 2014 Nov 26;11(1):18
24	Yuichiro Izumi	Radiology	Uterine artery embolization by use of porous gelatin particles for symptomatic uterine leiomyomas : comparison with hand-cut gelatin sponge particles	Japanese Journal of Radiology
25	Yoshimasa Mori	Radiology	Trigeminal neuralgia caused by nerve compression by dilated superior cerebellar artery associated with cerebellar arteriovenous malformation: case report	Neurol Med Chir
26	Kasugai K	消化管内科	Automatic Polyp Detection Using DSC Edge Detector and HOG Features.	International Conference on Pattern Recognition Applications and Methods. 24: 495-501, 2014
27	Kasugai K	消化管内科	Rikkunshito study group. Randomized clinical trial: rikkunshito in the treatment of functional dyspepsia—a multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled study.	Neurogastroenterol Motil. 26(7): 950-961, 2014
28	Ogasawara N,	消化管内科	Rapidly growing esophageal carcinosarcoma reduced by neoadjuvant radiotherapy alone.	Case Rep Gastroenterol. 8(2): 227-234, 2014
29	Ogasawara N	消化管内科	Predictive factors for intractability to endoscopic hemostasis in the treatment of bleeding gastroduodenal peptic ulcers in Japanese patients.	Clin Endosc. 47(2): 162-173, 2014
30	Ogasawara N	消化管内科	A case of early gastric cancer arising from gastritis cystica profunda treated by endoscopic submucosal dissection.	Case Rep Gastroenterol. 8(3): 270-5, 2015
31	Izawa S	消化管内科	The role of gastroesophageal reflux in relation to symptom onset in patients with proton pump inhibitor-refractory nonerosive reflux disease accompanied by an underlying esophageal motor disorder.	Digestion 89(1): 61-67, 2014

32	Okaniwa N	消化管内科	eNOS plays an important role in the regulation of colonic inflammation: a novel therapeutic target and a predictive marker for the prognosis of ulcerative colitis.	Free Radic Res 49(1): 35-44, 2015
33	Yabushita H	産婦人科	Clinicopathological roles of adiponectin and leptin receptors in endometrial carcinoma.	Oncol Lett 7(4):1109-17, 2014
34	Matsushita H	産婦人科、新潟市民病院	Fetal intracranial injuries following motor vehicle accidents with airbag deployment	J Obstet Gynaecol Res 40(2): 599-602, 2014
35	Matsushita H	産婦人科	Management of a second trimester miscarriage in a woman with incarcerated retroverted uterus	J Obstet Gynaecol 34(3): 272-3, 2014
36	Matsushita H	産婦人科、病院病理部	Unexpected ovarian malignancy following laparoscopic excision of adnexal masses	Hum Reprod 29(9): 1912-7, 2014
37	Mori T	産婦人科	Intravenous nicardipine for the treatment of renovascular hypertension due to fibromuscular dysplasia during pregnancy	Hypertens Res Pregnancy 2(1): 36-9, 2014
38	Mori T	産婦人科	Differences in vascular reactivity between pregnant women with chronic hypertension and preeclampsia	Hypertens Res 37: 145-50, 2014
39	Harada R	産婦人科	Effects of gonadotropin-releasing hormone agonist on vascular reactivity, oxidative stress, and plasma levels of asymmetric dimethylarginine, inflammatory markers, glucose, and lipids in women with endometriosis.	J. Aichi Med Univ Assoc 42(1-4): 1-10, 2014
40	Ohyama Y	産婦人科、静岡大学	Effect of the ethanol extract of pleurotus eryngii on bone metabolism in ovariectomized rats	Climacteric 17(4): 492-9, 2014
41	Yoshida A	産婦人科	Parasitic myoma in women after laparoscopic myomectomy: A late sequela of morcellation?	J Obstet Gynaecol 35(3): 322-3, 2015
42	Watanabe K	周産期・母子医療センター、産婦人科、先端センター、先端医学研究センター、高知大学	Pregnancy-induced hypertension is associated with an increase in the prevalence of cardiovascular disease risk factors in Japanese women	Menopause 22(6): 656-9, 2015
43	Yamamoto Y	薬剤部、産婦人科	Nephroprotective Effects of Hydration with Magnesium in Patients with Cervical Cancer Receiving Cisplatin	Anticancer Res 35(4): 2199-204, 2015
44	高阪絢子	乳腺・内分泌外科	Targeted sonography using an image fusion technique for evaluation of incidentally detected breast lesions on chest CT: a pilot study.	Breast Cancer. Nov 6. [Epub ahead of print] 2014
45	高阪絢子	乳腺・内分泌外科	A case of quadruple primary malignancies including breast, tongue, and thyroid cancers and osteosarcoma in a young female without karyotype abnormality.	Breast Cancer. Jul; 21(4):500-3. 2014
46	塩見有佳子	乳腺・内分泌外科	Clinical significance of circulating tumor cells (CTCs) with respect to optimal cut-off value and tumor markers in advanced/metastatic breast cancer.	Breast Cancer. Jun 7. [Epub ahead of print] 2014
47	浅井信博	呼吸器・アレルギー内科	Successful crizotinib re-challenge after crizotinib-induced organizing pneumonia in anaplastic lymphoma kinase-rearranged non-small cell lung cancer.	Case Reports in Oncology 7, 681-4, 2014, DOI: 10.1159/000366516
48	浅井信博	呼吸器・アレルギー内科	Successful crizotinib re-challenge after crizotinib-induced interstitial lung disease in patients with advanced non-small cell lung cancer.	Clin Lung Cancer 15, e33-5, 2014, doi: http://dx.doi.org/10.1016/j.cllc.2013.12.004.

49	浅井信博	呼吸器・アレルギー内科	Relapsed small cell lung cancer: treatment options and latest developments.	Therapeutic Advances in Medical Oncology 6, 69-82, 2014; DOI: 10.1177/1758834013517413
50	横江徳仁	呼吸器・アレルギー内科	UGT1A1*28 is associated with greater decrease in serum K ⁺ levels following oral intake of procaterol.	J Asthma. 10:1-6, 2014.
51	Hirokazu Imai	Division of Nephrology and Rheumatology	Fat Embolism Syndrome: An Autopsy-Proven Case Involving a Patient on Dialysis and Systemic Scleroderma	Clinical Medical Insights: Case Reports 7:7-12
52	Hirokazu Imai	Division of Nephrology and Rheumatology	Gemcitabine-induced hemolytic uremic syndrome mimicking scleroderma renal crisis presenting with Raynaud's phenomenon, positive antinuclear antibodies and hypertensive emergency.	Intern Med. 53::445-448.
53	Keisuke Suzuki	Division of Nephrology and Rheumatology	Estimated glomerular filtration rate and daily amount of urinary protein predict the clinical remission rate of tonsillectomy plus steroid pulse therapy for IgA nephropathy.	Clin Exp Nephrol 18::606-612
54	Shogo Banno	Division of Nephrology and Rheumatology	Retrospective analysis of factors predicting end-stage renal failure or death in patients with microscopic polyangiitis with mainly renal involvement	Clin Exp Nephrol 18:795-802
55	Naoto Miura	Division of Nephrology and Rheumatology	A multicenter randomized controlled trial of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy in patients with immunoglobulin A nephropathy	Nephrol Dial Transplant 29::1546-1553
56	Mori Y	Department of Psychiatry, Aichi Medical University	Anger is a distinctive feature of epilepsy patients with depression.	Tohoku J Exp Med, 232, 123-8, 2014
57	井上雅之	愛知医科大学運動療育センター	The efficacy of a multidisciplinary group program for patients with refractory chronic pain.	Pain Res Manag 2014; 19(6):302-8
58	新井健一	愛知医科大学学際的痛みセンター	The review of innovative integration of Kampo medicine and Western medicine as personalized medicine at the first multidisciplinary pain center in Japan.	EPMA J 2014; 5(1):10.
59	福沢嘉孝	愛知医科大学・医学部・消化器内科: Dep. of Internal Med., Division of Gastroenterology	Effect of green tea catechins on nonalcoholic steatohepatitis (NASH) patients	J of Functional Foods, 9(4):48-59, 2014.
60	竹内一	愛知医科大学・医学部(現在, 研修医): School of Med., Aichi Med. Univ.	A rare congenital extrahepatic portosystemic shunt affecting the inferior mesenteric vein, inferior vena cava, and left ovarian vein.	Surg Radiol Anat. 36(7):729-732, 2014.
61	佐藤顕	愛知医科大学・医学部・消化器内科: Dep. of Internal Med., Division of Gastroenterology	Vitamin E has a beneficial effect on nonalcoholic fatty liver disease.	Epub 2014. Dec 24. →Nutrition. 31(7-8):923-930, 2015.
62	Kawanami K	整形外科	A case of mediastinal embryonal carcinoma successfully treated by integrative therapy.	Nagoya J Med Sci. 2014 Feb;76(1-2):225-33.
63	Wakao N	整形外科 脊椎脊髄センター	Variance of cervical vertebral artery measured by CT angiography and its influence on C7 pedicle anatomy.	Spine (Phila Pa 1976). 2014 Feb 1;39(3):228-32.
64	Wakao N	整形外科 脊椎脊髄センター	The surgical treatment method for an adult posttraumatic thoracolumbar kyphosis patient with osteogenesis imperfecta.	Nagoya J Med Sci. 2014 Aug;76(3-4):341-8.
65	Wakao N	整形外科 脊椎脊髄センター	Vertebral artery variations and osseous anomaly at the C1-2 level diagnosed by 3D CT angiography in normal subjects.	Neuroradiology. 2014 Oct;56(10):843-9.

66	Takeuchi M	脳神経外科 脊椎脊髄センター	A simple, 10-minute procedure for transforaminal injection under ultrasonic guidance to effect cervical selective nerve root block.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014 Mar 7 (ahead of print)
67	Takeuchi M	脳神経外科 脊椎脊髄センター	Morphological distinction of cervical nerve roots associated with motor function in 219 healthy volunteers: a multicenter prospective study.	Spine (Phila Pa 1976). 2014 Jul 15;39(16): 944-9
68	Takeuchi M	脳神経外科 脊椎脊髄センター	Large volume inside the cage leading incomplete interbody bone fusion and residual back pain after posterior lumbar interbody fusion.	Neurosurg Rev. 2015 Feb 10. [Epub ahead of print]
69	Hirose S	整形外科	Idiopathic chondrolysis in adults treated with surgical dislocation of the hip.	Annals of Orthopedics & Rheumatology 2014. 2:2(1):1010-3.
70	Akiko Asai	Department of Biochemistry, Department of Plastic & Reconstructive Surgery, Aichi Medical University School of Medicine	High-resolution 400K oligonucleotide array comparative genomic hybridization analysis of neurofibromatosis type 1-associated cutaneous neurofibromas	Gene. 558, 220-226, 2015
71	奥村彰久	小児科	Is attitude toward epilepsy and driving affected by media coverage?	Pediatr Int. 2014;56:759-62.
72	奥村彰久	小児科	3p interstitial deletion including PRICKLE2 in identical twins with autistic features.	Pediatr Neurol. 2014;51:730-3.
73	武藤太一朗	小児科	The role of basophils and proallergic cytokines, TSLP and IL-33, in cutaneously-sensitized food allergy.	Int Immunol. 2014;26:539-49.
74	大須賀 浩二	愛知医科大学脳神経外科	Eotaxin-3 activates the Smad pathway through the transforming growth factor beta 1 in chronic subdural hematoma outer membranes	J Neurotrauma 31 : 1451-1456 2014
75	大須賀 浩二	愛知医科大学脳神経外科	Expression of the JAK/STAT3/SOCS3 signaling pathway in herniated lumbar discs.	Neurosci Lett 569 : 55-58 2014
76	大須賀 浩二	愛知医科大学脳神経外科	Expression of suppressor of cytokine signaling 3 in cerebrospinal fluid after subarachnoid hemorrhage	J Neuroinflammation 11 : 142-145 2014
77	Nakayama T.	Aichi Medical University	Dexamethasone Palmitate Ameliorates Macrophages-Rich Graft-versus-Host Disease by Inhibiting Macrophage Functions	PLoS ONE. 2014, 9(5): e96252.
78	Ito K, Yotsuyanagi H, Yatsuhashi H, Krino Y, Takikawa Y, Saito t, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T, Ichida T, Toyoda H, Yoneda M, Mita E, Yamamoto K, Michitaka K, Meshiro T, Tanuma J, Tanaka Y, Sugiyama M, Murata K, Masaki N, Mizokami M; Japanese AHB Study Group	愛知医科大学消化器内科	Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults.	Hepatology 59, 89-97, 2014
79	Yoneda M	愛知医科大学消化器内科	Is the measurement of serum cytokeratin-18 useful for diagnosis or screening nonalcoholic steatohepatitis?	Hepatol Res 44(8), 827-8, 2014

80	Nakade Y, Yoneda M	愛知医科大学消化器内科	Prognostic factors for regression from impaired glucose tolerance to normal glucose regulation in Japanese patients with nonalcoholic fatty liver disease.	Intern Med 53, 1399-400, 2014
81	Yoneda M, Hasegawa T, Sato K	愛知医科大学消化器内科	Vitamin E therapy on NAFLD/NASH	Nutrition, 31:898-9, 2015
82	9. Sato K, Goshō M, Yamamoto T, Kobayashi Y, Ishii N, Ohashi T, Nakade Y, Ito K, Fukuzawa Y, Yoneda M	愛知医科大学消化器内科	Vitamin E has a beneficial efficacy on nonalcoholic fatty liver disease: a meta-analysis of randomized controlled trials	Nutrition, 31:923-30, 2015
83	内田 敬子	愛知医科大学眼科	Valsalva-like retinopathy spontaneously occurred after ocular massage.	Case Rep Ophthalmol.
84	玉置 力也	愛知医科大学眼科	Interference of Descemet's Membrane with Aqueous Humor Drainage via an ExPRESS Mini Shunt.	Case Rep Ophthalmol.
85	雑喉 正泰	愛知医科大学眼科	Long-term progressive deterioration of visual function after papilledema improved by embolization of a dural arteriovenous fistula in the sigmoid sinus: a case report.	J Med Case Rep.
86	水本 強一	愛知医科大学眼科	Correlation between optic nerve head structural parameters and glaucomatous visual field indices.	Clin Ophthalmol.
87	武山 正行	愛知医科大学眼科	Recurrent vitreous hemorrhage associated with regressed retinopathy of prematurity in a 47-year-old patient: a case report.	J Med Case Rep.
88	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Recurrent ptosis in a patient with blepharochalasis: clinical and histopathologic findings.	J Craniofac Surg.
89	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Horizontal eye position in thyroid eye disease: a retrospective comparison with normal individuals and changes after orbital decompression surgery.	PLoS One.
90	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	Movement of the lacrimal canalicular wall under intracanalicular pressure changes observed with dacryoendoscopy.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
91	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Congenital entropion: outcome of posterior layer advancement of lower eyelid retractors and histological study of orbicularis oculi muscle hypertrophy.	Orbit.
92	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Upper eyelid reconstruction by making a skin defect similar to skin removal in blepharoplasty.	J Craniofac Surg.
93	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	Elastic nature of the lacrimal canalicular wall.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
94	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Meibomian Gland Dysfunction in Cranial Nerve VII Palsy.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
95	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Comparison of bony nasolacrimal canal narrowing with or without primary acquired nasolacrimal duct obstruction in a Japanese population.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
96	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Anatomy of anterior ethmoidal foramen, medial canthal tendon, and lacrimal fossa for transcutaneous anterior ethmoidal nerve block in Japanese individuals.	Ophthal Plast Reconstr Surg.

97	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Lacrimal sac movement under intrasac pressure changes observed with dacryoendoscopy.	Ophthal Plast Reconstr Surg.
98	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Topical rebamipide treatment for superior limbic keratoconjunctivitis in patients with thyroid eye disease.	Am J Ophthalmol.
99	Yanagishita T	愛知医科大学皮膚科	An actin-binding protein espin is a growth regulator for melanoma.	J Invest Dermatol. 2014 134(12): 2996-9.
100	Yanagishita T	愛知医科大学皮膚科	Actin-binding protein, Espin: a novel metastatic regulator for melanoma.	Mol Cancer Res. 2014 12(3): 440-6.
101	Ogawa A	愛知医科大学皮膚科	A rare case of quadruple extramammary Paget's disease including an umbilical lesion.	Dermatol Surg. 2014 40(7): 813-4.

計 101

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするものは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実体上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	木下 浩之	麻酔科学講座	血管の病態生理におけるフォスファチジルイノシトール3-キナーゼ-Akt経路の役割と麻酔薬	臨床麻酔 38(1) 47-54 2014
2	藤原 祥裕	麻酔科学講座	術後鎮痛のこれから 末梢神経ブロックを最大活用した周術期管理の試み	日本臨床麻酔学会誌 34(2) 192-197 2014
3	木下 浩之	麻酔科学講座	長期予後を考えた周術期管理とは? 周術期虚血性心疾患とニコランジル	日本臨床麻酔学会誌別冊 34(5) 760 2014
4	安藤博彦	循環器内科	ゾタロリムス溶出性ステント留置1ヶ月後に無症候性にステント内血栓形成をきたした透析症例.	日本冠疾患学会雑誌. 2014
5	伊藤良隆	循環器内科	房室伝導比の異なる房室結節リエントリ頻拍と三尖弁輪起源心房頻拍を合併した1例.	臨床心臓電気生理. 2014;37:169-176.
6	黒田 康子	中央臨床検査部	当院におけるくも膜下出血後のTranscranial color flow imaging (TC-CFI) 検査について	らぼ: 65巻1号, 15-18 (2014. 09)
7	内田育恵	愛知医科大学	補聴器外来受診者の語音明瞭度 - 他年齢群と比較した超高齢群の特徴	Audiology Japan 57巻3号 Page195-201
8	木全未紘	愛知医科大学	診断に苦慮したLandau-Kleffner症候群の言語発達経過	Audiology Japan vol.57 Page78-83, 2014
9	野々山宏	愛知医科大学	成人における急性喉頭蓋炎の検討	日耳鼻 117: 191-195, 2014
10	植田広海	愛知医科大学	小児期における先天性真珠腫増加要因の検討	Otology Japan 24:5:755-9 2014
11	道勇 学	神経内科	高次脳機能、意識障害とせん妄	medicina 51:1214-7, 2014
12	岡田洋平	神経内科	ES・iPS細胞から神経幹細胞への分化誘導	実験医学別冊ES・iPS細胞実験スタンダード:202-16, 2014
13	丹羽淳一	神経内科	椎骨動脈解離	増刊レジデントノート 16(14):2570-1, 2014
14	丹羽淳一	神経内科	ギラン・バレー症候群	増刊レジデントノート 16(14):2660-1, 2014

15	中尾直樹	神経内科	重症筋無力症	増刊レジデントノート 16(14):2666-7, 2014
16	岡田洋平	神経内科	iPS細胞創薬への期待と課題	Frontiers in Parkinson Disease 7:204-8, 2014
17	二井章太	産婦人科	Mayer-Rokitansky-Kuester-Hauser症候群に対し腹腔 鏡補助下造腔術(Davydov変法)を施行した1例	東海産科婦人科学会雑誌 51: 181-4, 2015
18	今井常夫	乳腺・内分泌外科	多発性内分泌腫瘍症2型の褐色細胞腫における副腎皮質機能 の扱い	日本医事新報 4721号 Page61-62(2014.10)
19	今井常夫	乳腺・内分泌外科	原発性副甲状腺機能亢進症における画像診断陰性例への対 応	日本医事新報 4717号 Page61-62(2014.09)
20	今井常夫	乳腺・内分泌外科	特集: 多発性内分泌腫瘍症(MEN1, 2)	家族性腫瘍 2014; 14 (1): 1
21	今井常夫	乳腺・内分泌外科	特集2. 「がん登録の歴史・現状・将来展望」に よせて	日本内分泌・甲状腺外科学 会雑誌 2014; 31(1): 27-8
22	今井常夫	乳腺・内分泌外科	特集1. 「グレーゾーンの甲状腺癌に対する術式」によ せて	日本内分泌・甲状腺外科学 会雑誌 2014; 31(4): 251-2
23	中野正吾	乳腺・内分泌外科	【Women's Imaging 2014(Vol. 9):Breast Imaging. モダリティの進歩から見る乳がん画像診断のこれから】乳がん画像 診断のモダリティ別最新動向 超音波診断装置の現状と展望 超音波fusion技術 Real-time Virtual Sonographyの有 用性と将来展望	INNERVISION 2014; 29 (8): 43-6
24	手塚理恵	乳腺・内分泌外科	甲状腺髄様癌の内深頭リンパ節再発に対し治癒切除が可能であった多発性内分 泌腫瘍症2A型の1例	日本内分泌・甲状腺外科学 会雑誌 2014; 31(4): 319-22
25	今井裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	血液疾患で生じる急性腎障害	日本内科学会雑誌 103: 1108-1115, 2014
26	今井裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	アミロイド腎症とMonoclonal Immunoglobulin Deposition Disease(MIDD)	日本腎臓学会誌 56:493- 499, 2014
27	野畑宏信	腎臓・リウマチ膠原病内科	肥満関連腎症	医学のあゆみ 249:796-800, 2014
28	伊吹恵里	総合診療科	黄耆建中湯を中心とした漢方治療がQOLの改善に効果的で あった若年発症後天性全身性無汗症の1例	日本東洋医学雑誌
29	伊吹恵里	総合診療科	葛根湯が奏効した無汗症の1例	日本自律神経学会総会プロ グラム・抄録集
30	脇田嘉登	総合診療科	反射性失神と心臓拡張障害の検討	日本自律神経学会総会プロ グラム・抄録集
31	伊吹恵里	総合診療科	葛根湯が短期間に奏効した20年来の無汗症の1例	発汗学
32	伊吹恵里	総合診療科	後天性特発性全身性無汗症に対する漢方薬使用経験	日本内科学会雑誌
33	伊吹恵里	総合診療科	第19回東海支部専門医部会 教育セミナーまとめ 内科 疾患と臨床推論	日本内科学会雑誌
34	脇田嘉登	総合診療科	電解質、酸塩基平衡検査を苦手にならない“血液ガスのエッ センス”	臨床検査
35	宇佐美潤	総合診療科	Part II 病態別栄養療法 2 腎疾患 2-2 腎炎・ネフローゼ	臨床栄養実践ガイド
36	郷治洋子	愛知医科大学精神科学講座	顔面骨折緊急手術後にWernicke脳症を発症したアルコール 依存症の1例	精神科治療学 29 1201-4 2014
37	兼本浩祐	愛知医科大学精神神経科	道具の強制使用・他人の手徴候	Clinical Neuroscience 32 90-2 2014
38	兼本浩祐	愛知医科大学精神科学講座	てんかんに併存した抑うつ状態	精神科治療学 29 331-6 2014
39	兼本浩祐	愛知医科大学医学部精神科 学	新規抗てんかん薬	日本医師会雑誌 143 1466 2014
40	加藤悦史	愛知医科大学精神科学講座	自傷行為を繰り返す精神遅滞	精神科治療学 29 1127-32 2014
41	兼本浩祐	愛知医科大学精神科学教室	心因性非てんかん性発作	精神科治療学 29 1119-26 2014
42	兼本浩祐	愛知医科大学精神神経科	脳を通して私が生まれるとき 精神科医のパンセ 私は脳 の中にいるのか ベルクソンの円錐の謎	こころの科学 176 85-9 2014
43	兼本浩祐	愛知医科大学精神科学講座	脳神経外科をとりまく医療・社会環境 てんかん症例への 行政支援	Neurological Surgery 42 665-72 2014
44	兼本浩祐	愛知医科大学精神神経科	脳を通して私が生まれるとき 精神科医のパンセ 細胞が 連なり、神経が生まれ、しかし脳はまだない	こころの科学 178 108-13 2014
45	兼本浩祐	愛知医科大学精神科学教室	私はDSM-5の解離性障害をこう見る	精神科治療学 29 416-18 2014

46	西原真理	愛知医科大学学際的痛みセンター	Echoic Memory: Investigation of Its Temporal Resolution by Auditory Offset Cortical Responses	PLoS One 2014; 9(8):e106553.
47	新井健一	愛知医科大学学際的痛みセンター	Dorsal root ganglion pulsed radiofrequency for the management of intractable vertebral metastatic pain: a case series.	Pain Med. 2015 May;16(5):1007-12. (Epub 2014 Dec 19.)
48	新井健一	愛知医科大学学際的痛みセンター	The Effect of the Kampo Medicine Yokukansan on Preoperative Anxiety and Sedation Levels	Evid Based Complement Alternat Med. 2014 ; 4: 965045.
49	新井健一	愛知医科大学学際的痛みセンター	Integration of a Kampo medicine, Nijutsuto, and Western medical treatment in the treatment of long-term frozen shoulder refractory to Western medical treatment: a case series.	J Evid Based Complementary Altern Med. 2015; 20(2):157-61. (Epub 2015 Jan 22.)
50	大貫安希子	愛知医科大学形成外科	耳輪陥凹変形に対する新たなアプローチ ~Island Bridge Method~	日本形成外科学会誌. 34(6), 429-434, 2014
51	栗原秀徳	愛知医科大学形成外科	乳輪部小切開アプローチによる女性化乳房手術	日本美容外科学会会報. 36(2), 7-13, 2014
52	河野鮎子	愛知医科大学形成外科	Hemifacial microsomia に対する上下顎同時骨延長 - 下顎ポリウムを考慮した骨切り-	日本頭蓋顎顔面外科学会誌. 30(2), 55-67, 2014
53	梅本泰孝	愛知医科大学形成外科	エコーを用いて乳房インプラントのサイズを決定する方法	形成外科. 57(8), 924-928, 2014
54	平松幸恭	愛知医科大学形成外科	手背深達性熱傷の皮弁による再建	PEPARS. 94, 59-65, 2014
55	堀壽成	小児科	ALLの微小残存病変の評価と活用法	血液内科. 2014;68:201-4.
56	武藤太一郎	小児科	自然免疫系のリンパ球Innate lymphoid cellsとアレルギー性疾患	アレルギーの臨床. 2014;34:22-7.
57	大竹千生	内分泌・代謝内科	13年前に成人GHDと診断され、GH治療に対してデバイスに抵抗感があり無治療で長期間観察した女性の症状症候とその後のGH治療によるQOLの改善効果の検討	Pharma Medica
58	高安 正和	愛知医科大学脳神経外科	頸椎病変に対する前側方アプローチの有用性	脊髄外科 28 : 144-150 2014
59	高安 正和	愛知医科大学脳神経外科	脳神経外科医として挑んだ脊椎脊髄外科-頸椎手術への取り組み-	脊髄外科 28 : 232-238 2014
60	高安 正和	愛知医科大学脳神経外科	頸椎ダンベル神経鞘腫と思われる症例に対する治療戦略	脊髄外科 28 : 267-268 2014
61	大須賀 浩二	愛知医科大学脳神経外科	慢性硬膜下血腫被膜におけるNF-κBシグナル伝達系の発現について	神経外傷 37 : 136-138 2014
62	大須賀 浩二	愛知医科大学脳神経外科	視床出血の予後	最新臨床脳卒中(下) 72 : 361-363 2014
63	竹内 幹伸	愛知医科大学脳神経外科	超音波頸部神経根ブロックのテクニック	脊髄外科 28 : 177-178 2014
64	竹内 幹伸	愛知医科大学脳神経外科	安全で簡便な超音波ガイド下選択的頸部神経根ブロック	Journal of Spine Research 5 : 739-743 2014
65	青山 正寛	愛知医科大学脳神経外科	歯突起後方偽腫瘍の画像的指標と治療	脊髄外科 28 : 303-305 2014
66	中山享之	輸血部	細胞療法の現状と将来 間葉系幹細胞を用いた細胞療法の発展性	日本輸血細胞治療学会誌60巻2号 Page256(2014. 04)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 別紙のとおり	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 13 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 規定の主な内容 1 利益相反委員会規程：利益相反を審査し、適切に管理・検討するための委員会規程 2 利益相反規程：利益相反の管理に関する規程	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 研究の公正性を保つために ヒトゲノム・遺伝子解析研究について	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

消化器内科内科学専門医養成コース 循環器専門医養成コース 呼吸器病学・アレルギー学及び臨床腫瘍学専門医養成コース 内分泌・代謝・糖尿病専門医コース 神経内科専門医養成コース 腎臓・膠原病内科関連専門医・学位取得コース 血液学専門医養成コース 総合診療科全人的診療医養成コース リウマチ学・アレルギー学専門医養成コース 睡眠医療認定医取得コース 集中的脳卒中診療研修コース 輸血・細胞治療学認定医養成コース 病理・細胞診専門医コース 感染症専門医/インфекションコントロール・ドクター養成コース 精神科学専門医養成コース 小児科学専門医養成コース 皮膚科専門医取得コース 放射線科専門医取得コース・放射線科治療専門医取得コース 日本外科学会専門医取得コース 消化器外科学専門医養成コース 心臓外科学専門医養成コース 血管外科専門医養成コース 呼吸器外科学専門医養成コース 乳腺専門医養成コース 脳神経外科専門医養成コース 整形外科専門医養成コース 泌尿器科専門医養成コース 産婦人科卒後6年間コース 形成外科学専門医養成コース 眼科専門医取得コース 耳鼻咽喉科専門医養成コース リハビリテーション専門医取得コース 救命救急科専門医コース 麻酔専門医養成コース 日本ペインクリニック専門医取得コース 口腔外科専修医取得コース

2 研修の実績

研修医の人数	164人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
春日井邦夫	内科	教授	30年	消化管内科
米田政志	内科	教授	32年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	26年	循環器内科
山口悦郎	内科	教授	36年	呼吸器・アレルギー-内科
大竹千生	内科	教授	36年	内分泌・代謝内科
道勇学	内科	教授	30年	神経内科, 脳卒中センター
今井裕一	内科	教授	38年	腎臓・リウマチ膠原病内科
高見昭良	内科	教授	24年	血液内科
中村二郎	内科	教授	34年	糖尿病内科, 糖尿病センター
兼本浩祐	精神科, 神経科	教授	32年	精神神経科, こころのケアセンター
奥村彰久	小児科	教授	26年	小児科
佐野力	外科	教授	29年	消化器外科
松山克彦	心臓血管外科	教授	24年	心臓外科
石橋宏之	心臓血管外科	教授	33年	血管外科
羽生田正行	呼吸器外科	教授	34年	呼吸科外科
小林孝彰	外科	教授	30年	腎移植外科
高安正和	脳神経外科	教授	37年	脳神経外科, 脊椎脊髄センター
出家正隆	整形外科	教授	27年	整形外科
渡邊大輔	皮膚科	教授	22年	皮膚科
住友誠	泌尿器科	教授	24年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	31年	産科・婦人科, 周産期母子医療センター
瓶井資弘	眼科	教授	27年	眼科
植田広海	耳鼻咽喉科	教授	36年	耳鼻咽喉科
石口恒男	放射線科	教授	38年	放射線科
藤原祥裕	麻酔科	教授	28年	麻酔科
前川正人	内科	教授	30年	総合診療科, プライマリーケアセンター
横尾和久	形成外科	教授	37年	形成外科
三木靖雄	救急科	教授	26年	救命救急科, 救命救急センター
木村伸也	リハビリテーション科	教授	33年	リハビリテーション科, リハビリテーション部
塩見利明	内科	教授	37年	睡眠科
三嶋廣繁	内科	教授	26年	感染症科, 感染制御部
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	31年	歯科口腔外科
後藤峰弘	内科	教授	37年	臨床検査部
加藤栄史	内科	教授	31年	輸血部, 細胞治療センター

牛田享宏	麻酔科	教授	24年	痛みセンター
山田恭聖	小児科	教授	21年	周産期母子医療センター
三嶋秀行	外科	教授	31年	臨床腫瘍センター、臨床研究支援センター
久保昭仁	内科	教授	28年	臨床腫瘍センター
三原英嗣	内科	教授	30年	臨床腫瘍センター
畠山登	麻酔科	教授	26年	周術期集中治療部

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容

- ・研修の期間・実施回数

- ・研修の参加人数

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容

- ・研修の期間・実施回数

- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容

- ・研修の期間・実施回数

- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状		
管理責任者氏名	病院長 羽生正行		
管理担当者氏名	医事課 村中和秋 病院管理課 近藤朋志 地域医療連携課 竹崎武 医療情報管理課 加藤好幸 薬剤部 松浦克彦 医療安全管理室 高安正和 感染制御部 三嶋廣繁 臨床工学部 今井裕一		
		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院事務部 各科外来 薬剤部 中央カルテ室	外来カルテ・入院カルテともに電子カルテとなっている。 病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。 診療録の院外持出しは認めていない。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	医療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の体制第一の確保各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 医療安全課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項各号及び第九條の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第一項	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 中條孝弘 医事管理部長 秋田高典	
閲覧担当者氏名	医事課長 村中和秋 病院管理課長 近藤朋志 医療情報管理課長 加藤好	
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は医療情報管理課諸記録閲覧室	
閲覧の手続の概要		
申し出があり次第、上長の承認を得てから閲覧する。		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・指針の主な内容： 1. 安全管理のための基本的な考え方 2. 安全管理の体制確保のための委員会 3. 医療安全管理室の設置 4. 医療安全管理者の設置 5. セーフティマネージャーの設置 6. 患者相談窓口の設置 7. 医薬品安全管理責任者の設置 8. 医療機器安全管理責任者の設置 9. 医療事故発生時の対応方法等 10. 安全管理のための職員研修	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容： 1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。 2. 医療の安全管理の情報交換に関すること。 3. 医療の安全管理のための教育・研修に関すること。 4. その他医療安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 18 回
・研修の主な内容： 1. 医療安全講演会（2回） 2. AEDを使用した心肺蘇生法（9回） 3. エコーを使用したCVカテーテル挿入法（3回） 4. 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」（1回） 5. 新規採用医師ガイダンス（1回） 6. 新規採用職員ガイダンス（1回） 7. 新規採用看護師ガイダンス（1回）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容： 1. 電子カルテ入院運用開始、新病院移転に伴う医療安全管理マニュアルの改訂、新規追加 総論10 新規3 基本13 各論49 合計75項目 2. 血糖測定値の自動送信システム及び自動計算システムの構築と運用開始 3. 特異事例報告システムの運用開始 4. 医療問題発生時の医療費取り扱いマニュアルの策定	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有（10名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有（18名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・所属職員：専任（10）名 兼任（5）名 ・活動の主な内容： 1. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。 2. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。 3. 医療事故発生時の対応に関すること。 4. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。 5. 医療安全管理に関する院内の連絡調整 6. その他医療安全管理に関する業務	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策に関する基本的な考え方・ 院内感染のための委員会。その他の当該病院などの組織に関する基本方針・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・ 感染の発生状況の報告に関する基本方針・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ その他の当該病院等における院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染予防対策の確立に関すること。・ 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。・ 感染予防の教育に関すること。・ 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること。・ その他感染予防に関すること。 <p>以上に掲げる事項の審議</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 27 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染防止技術の基礎講座（7回） ・ 新規採用者研修（10回）・ 院外講師による感染予防に関する講演会（2回）・ 感染症例検討会（6回） ・ ICT・NST合同勉強会（2回）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) 無)</p>	
<p>The flowchart, titled '院内感染症発生時の報告経路 2014.8', illustrates the reporting process. A legend indicates that blue arrows represent '報告' (reporting) and red arrows represent '介入' (intervention). Reporting paths (blue arrows) flow from the '感染症発症部署' (Infection Outbreak Department) to the '微生物検査室' (Microbiology Laboratory), '診療科部長' (Department Chief), and '看護部' (Nursing Department). From the '微生物検査室', reports go to the '感染管理室' (Infection Management Room). From the '診療科部長' and '看護部', reports go to the '感染管理室'. From the '感染管理室', reports go to the '感染予防対策委員長' (Infection Prevention Committee Chairman), who then reports to the '病院長' (Hospital Director). The '感染管理室' also reports to the 'ICTリーダー' (ICT Leader) and 'ICT' (Information and Communication Technology). Intervention paths (red arrows) flow from the 'ICT' back to the '感染管理室', and from the '感染管理室' to the '微生物検査室' and '感染症発症部署'. A dashed box on the right indicates the '感染予防対策委員会 (有事の場合開催)' (Infection Prevention Committee, convened in case of an emergency).</p>	
<p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	
<p>SSIサーベイランスの実施，ICU全サーベイランスの実施，BSIサーベイランスの実施，全病院サーベイランスの実施，ICTラウンドの実施，リンクナース活動などのサーベイランスの実施とフィードバック</p>	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>・麻薬・向精神薬および毒薬の適切な保管管理ならびに当院における運用（新入職員オリエンテーション）</p> <p>・麻薬、向精神薬の取り扱いについて（研修医研修）</p> <p>・静脈注射を安全に実施するための薬の基礎知識（IVナース研修）等</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有) 無)</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の改訂</p> <p>・職員に対する教育・研修の実施</p> <p>・医薬品安全の業務手順書に基づいた業務の実施状況の確認</p> <p>・医薬品の安全使用のために必要な情報の収集</p> <p>・医薬品の安全確保に向けた業務改善</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・院内製剤の申請・承認の運用手順の構築</p> <p>・ITを活用した医薬品適正使用のための薬剤部門システム構築（処方鑑査支援、無菌調製支援、製剤管理、TDM解析支援、薬品管理、レジメン鑑査、薬剤管理指導業務支援等）</p>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 114 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>取扱説明、使用方法、簡単なトラブルシュートと実際の機器を使用したハンズオンセミナーを少人数から行い、確実に習得できるよう行っている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 (有)・無</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>マンズ一点検・使用後点検・使用中点検マニュアルを作成し、点検表に記入しながら行っている。定期点検は、年一回若しくは規定使用時間に達した場合メーカーに依頼して行っている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDAや関連学会、医療機器メーカー、医療系配信サービスなどから得た情報を学内メールを利用して全病院職員に配信している。医療機器への表示が必要となるものには、直接注意事項を添付している。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構 時期：平成17年10月17日認定 平成22年12月3日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 方法：リーフレットの配布・掲示 ホームページ 病院広報誌など 内容：当院の医療連携上の役割 前方・後方連携への協力要請など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・ 外来において、循環器内科と心臓外科・血管外科、消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し、共同診療に配慮している。 ・ 診療科間で依頼箋により情報交換し、専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては、共同カンファレンスを行って診療を行っている。 ・ 疾患の必要に応じて、複数の診療科による共同の手術を行っている。 ・ 救命救急センターにおいて、救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い、連携して診療に当たっている。	

愛知医科大学病院倫理委員会規程（標準業務手順書）

（趣旨）

第1条 この規程は、愛知医科大学病院倫理審査実施規程第4条第2項の規定に基づき、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成25年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）、遺伝子治療臨床研究に関する指針（平成16年文部科学省・厚生労働省告示第2号）等に準拠して、愛知医科大学病院（以下「病院」という。）における倫理委員会（以下「委員会」という。）の構成、審査方針・方法、運営方法、記録の保存等について定める。

（構成等）

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 基礎医学部門及び臨床医学部門の教授各2名
 - 二 人文・社会科学を専門とする医学部の教員1名
 - 三 医学部以外の学識経験者又は一般の立場の者2名以上
 - 四 法律に関する専門家1名以上
 - 五 分子生物学、細胞生物学、遺伝学、臨床薬理学、病理学等を専門とする医学部の教員3名以上
 - 六 提出された遺伝子治療臨床研究実施計画の対象となる疾患に係る臨床医1名以上
 - 七 その他病院長が必要と認める教員若干名
- 2 前項第3号の委員のうち1名は、一般の立場の者とする。
- 3 第1項の委員には、男性及び女性の双方が加わらなければならない。
- 4 第1項第1号及び第2号の委員の任期は2年、第3号、第4号、第5号及び第7号の委員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充した委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 第1項第5号の委員は、遺伝子治療臨床研究に関する指針に該当する事項の審議及び採決にのみ加わるものとする。
- 6 第1項第6号の委員は、審査する実施計画ごとに選出するものとし、任期は、当該実施計画の審査終了の日までとする。

（委員長、副委員長）

第3条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により決定する。
- 3 委員会に副委員長2名を置き、委員長が指名する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 5 委員長及び副委員長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

（審査方針）

第4条 委員会は、人を対象とする医学系研究等及び特定の医療行為（以下「研究等」という。）について、次に掲げる事項を確認して審議を行わなければならない。

- 一 被験者の人権擁護、安全の確保及び福祉への配慮がなされていること。
- 二 倫理的、科学的及び医学的に妥当であること。
- 三 被験者（又は試料提供者）に十分な説明とその自由意思による同意が適切に行われ

ていること。また、社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある研究等においては、細心の注意が払われていること。

四 人間の尊厳を尊重し、関連指針を遵守し、研究計画に従って適正に研究等が実施されること。

五 その他委員会が必要と認める事項

(審査資料の入手)

第5条 委員会は、審査資料として倫理審査申請書その他委員会が必要とする資料を病院長から入手しなければならない。

(委員会の運営)

第6条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会は、原則として、月1回開催する。ただし、病院長から臨時に審査依頼があった場合は、随時委員会を開催することができる。

3 委員会は、委員の3分の2以上が出席し、かつ、第2条第1項第2号の委員、同項第4号の委員及び同条第2項に規定するもののうち1名以上の出席がなければ、会議を開催することができない。

4 委員会は、委員以外の議事に関連する者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

5 委員長は、申請された研究等の研究計画について、第8条に規定する専門委員会の意見を求めることができる。

6 当該研究等の研究責任者、分担研究者又は研究協力者となっている委員は、その関与する研究等について情報を提供することはできるが、当該研究等に関する事項の審議及び採決に加わることはできない。

7 委員会の委員は、職務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。委員を退いた後も同様とする。

8 審査の判定は、出席委員全員の合意を原則とする。ただし、意見の一致に至らない場合には、出席委員の3分の2以上の合意により判定できるものとする。

9 前項の判定は、次の各号のいずれかによる。

一 承認

二 修正した上で承認

三 条件付承認

四 不承認

五 保留

六 停止

七 中止

10 委員会は、審議終了後速やかに、審査結果を病院長に倫理審査結果通知書により通知するものとする。

11 病院長は、委員会の審査結果について異議がある場合には、理由書を添えて委員会に再審査を請求することができる。

12 委員会の決定に対する研究責任者からの異議申し立ては、病院長を通じて行うものとする。

(迅速審査)

第7条 委員会は、遺伝子治療臨床研究に関する指針又は病院が主たる研究機関となる多施設共同研究の審査を除き、次に掲げる事項の審査について、委員長が指名する委員2名による迅速審査に付することができる。

一 他の研究機関と共同して実施される研究等であって、既に当該研究等の全体について共同研究機関において倫理審査委員会の承認を受け、その実施について適当である旨の意見を得ている場合の審査

二 研究計画書の軽微な変更に関する審査

三 侵襲を伴わない研究等であって介入を行わないものに関する審査

四 軽微な侵襲を伴う研究等であって介入を行わないものに関する審査

2 迅速審査の対象か否かの判断は、委員長及び副委員長1名が行う。

3 第1項の委員のうち、1名を主査、1名を副査とする。

4 主査は、迅速審査の結果を委員長に報告する。

5 前項の迅速審査の結果が、主査及び副査の合意による承認の場合は、委員長は速やかに審査結果を病院長に通知し、次回の委員会において迅速審査の内容及び判定結果を報告するものとする。

6 第4項の迅速審査の結果が、主査及び副査の合意による承認以外の場合は、委員長は当該研究計画について次回の委員会において審査するものとする。

(専門委員会)

第8条 委員会に、次の専門委員会を置く。

一 病院第一専門委員会

二 病院第二専門委員会

三 病院ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する専門委員会

四 病院遺伝子治療臨床研究に関する専門委員会

2 専門委員会は、委員長の諮問に依りて専門的事項を調査・検討し、その結果を委員長へ報告する。

3 専門委員は、当該専門事項にかかわる学識経験者のうちから、委員長が委嘱する。

4 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 専門委員会に専門委員会委員長を置き、委員長が指名する。

6 専門委員会委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

7 専門委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開催することができない。

(事務担当者の業務)

第9条 委員会の事務担当者は、委員長の指示により、次に掲げる業務を行う。

一 委員会の開催準備

二 委員会の議事録の作成

三 倫理審査結果通知書の作成及び病院長への提出

四 委員会で審議の対象としたすべての資料、議事録、会議の議事要旨、倫理審査結果通知書、その他委員会が作成した資料等の保存

五 その他委員会に関する業務の円滑化を図るために必要な事務及び支援

(記録の保存)

第10条 委員会において保存すべき文書(以下「保存文書」という。)は、次に掲げるも

のとする。

- 一 この標準業務手順書
 - 二 委員名簿（職名及び資格を含む。）
 - 三 前条第4号に規定する資料等
 - 四 書簡等の記録
 - 五 その他委員長が必要と認めたもの
- 2 保存文書の保存責任者は、病院管理課長とする。

（記録の保存期間）

第11条 病院管理課長は、保存文書を、当該研究等の終了した日の属する年度の翌年度の4月1日から5年間保存する。ただし、その間に当該研究が公表された場合には、公表した年度の翌年度の4月1日から起算する。

（細則）

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成27年8月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の際平成27年8月1日廃止前の倫理委員会の専門委員会に関する細則第3条の規定により専門的事項を調査・検討中の研究等のうち病院におけるものは、この規程により調査・検討したものとみなす。
- 3 第8条第1項に規定する専門委員会委員のうち最初の委員の任期は、第8条第4項本文の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 4 第2条第4項に規定する委員のうち最初の委員の任期は、同項本文の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。